キャンパスの四季　Four Seasons in SHC　(No.60)　2016/03/31

＜雀始巣＞ 3 月下旬から 4 月初めの 2 週間ほどは 24 節季の“春分”これが 72 候のうちの三つ“雀始巣”、“桜始開”、そして“雷乃発声” に分かれます。72 候は 1 年をおおよそ 5 日ごとに区切って季節の移り変わりを捉えた暦です。昔の人々は日々の生活の中で一週間に満たない時間での自然の変化を感じたのですね。“雀始巣＝すずめ始めて巣くう”、まさにスズメたちはこのところ騒がしく鳴きながら枯草を集めて巣づくりを始めています。

＜桜始開＞“桜始めて開く” は春の花の代表として桜を挙げたのでしょうか。その桜の代表と云えるソメイヨシノの満開は SHC ではもう少し先になりそうです。一方、雑木林の縁辺で遠くからでも目立つ春の装いを見せているのがうす黄色の房となった“キブシ”の花です。もう少し近寄ると白い小さな花のかたまりと新鮮な緑の葉をした“ニワトコ”が目に付きます。林の縁辺にぐんと近寄って「ほう、咲き出したか」とようやく気付くのがアケビの仲間です。写真の“ミツバアケビ”は雄花が房になっていて“アケビ”の雄花とは形が違います。さらに目立たず、花より匂い(芳香ではなく悪臭に近い)で分かるのが“ヒサカキ”です。ただいま満開ですが濃い緑の葉に隠れるように 5mm にも満たないような薄黄緑色の花を咲かせています。

＜キブシ＞

＜ニワトコ＞

＜ミツバアケビ＞

＜ヒサカキ＞

(キブシとニワトコ)キブシの実は黒色染料である五倍子の代用になります。一方、ニワトコ、別名“接骨木”の枝を煎じて採る粘液は骨折治療の湿布剤としたそうです。また枝の蕊（ずい）は生物組織の顕微鏡観察の切片作りの支持材として重宝されるとのことです。

＜タチツボスミレ＞

＜唱歌＞誰でもよく憶えている小学生の頃の唱歌の一つに「春の小川」があります。暖かい日差しの中で早や満開のスミレはこの唱歌を想わせます。

＜アメンボ＞

小川ではありませんがビオトープの池は今が水の最も澄んでいる時期です。水面が微かに波立ち池底に映る影が動くのが分かります。暖かさを感じてどこかから飛んできた“アメンボ”です。そういえば「あめんぼあかいなあいうえお」で始まる「あめんぼの歌(北原白秋)」がありました。

(文と写真：松本正勝)